

鈴蘭 第6号

発行者 青木 伸弘
 編集 「鈴蘭」編集委員会
 〒763-8507
 香川県丸亀市津森町219番地
 TEL (0877) 23-5555
 FAX (0877) 23-6200
<http://www.jyujin-asadahp.jp>
 題字 青木 伸弘



鈴蘭



100年後の丸亀市民に愛される病院

医療法人社団 重仁
 病院長 香川 勇



麻田総合病院が、「重仁」グループの一員として再生してから早くも3年目を迎えました。職員の皆さんは、日々新鮮な気持ちで緊張感を持って、仕事に勤しんでおられると思います。今、私がとても感謝しているのは、新しく「重仁」グループの皆さんが、丸亀市の津森町に、以前の儘、麻田総合病院を運営して頂いていると云うことです。何の縁もゆかりも無かった人達が、遠く丸亀の地に赴き、引き続き企業運営をして頂いていることに、衷心よりお礼を申し上げます。

最近では、医療は日進月歩の変革を遂げ、遅れずについて行くことが大変困難になってしまいました。例えば、国の方針として「地域包括ケアシステム」「地域医療連携室」といった概念がセットになって提唱され、医療機関どうしの「連携」と「差別化」が求められています。ただ私自身は「地域包括ケアシステム」という概念は何処かで聞いたことがあるように思えてなりません。職員の皆さんの中には、私達の病院は最初から今の様な規模だったと思われているかもしれませんが、決してそうではありません。

この病院は「麻田保英先生」が70年以上前の昭和20年、「善照寺」というお寺の本堂の片隅をかりて細々と診療所を開設したことに始まります。その後、幾つもの困難を乗り越え、今日の姿に成長して来たのです。私が病院に関係したのは昭和47年のことでしたが、当時は、まだ個人開業医院の雰囲気色が濃く残っていました。そのような開業医院の一つとして、「労災病院」のような大きな医療機関と連携して行く中で、今日の「地域包括ケアシステム」に似た考え方が身に付いたのではないかと思っています。公的な支援など一切受けられなかった、小規模な民間病院からこつこつと築き上げてきたおかげで、他の病院との連携の仕方や患者さんの接遇など、幾つかのノウハウを得て、他の医療機関と違った特徴が備わったと考えています。

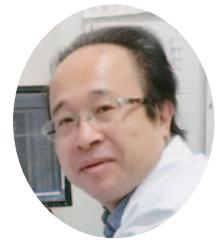
私は麻田先生から多くのことを学びました。今から約40年前、先生は幾度となく「リハビリテーション」の重要性を強調されていました。当時はあまり注目されなかった部門でしたが、今日では香川県下でも有数の施設に成長し、そのリハビリスタッフの活躍を目のあたりにするたび、先生の先見性に敬服させられます。また同じ頃、私は先生から「これからは腹腔鏡が腹部手術で重要な役目を果たすようになるから、腹腔鏡の勉強をしておきなさい。」と言われたことがあります。内科医である麻田先生から、外科手術についてアドバイスを頂き、とても驚いたことを今でも良く憶えています。腹腔鏡による胆嚢摘出術が初めて行なわれたの

は31年前のことですが、先生からアドバイスを頂いたのは、それ以前のことでした。外科医であるにも関わらず、私はその重要性に気付かず聞き流してしまいました。今日の腹腔鏡手術の隆盛を見るにつけ、内科医であった麻田先生の情報力や想像力の豊かさに感心せずにはられません。

やはり40年以上前のことになりましたが、先生は私に、一度だけ、「100年後の丸亀市民に愛される病院を作りたい」とさりげなく話されたことがあります。その時、私は麻田先生の言葉には、一人の医師として地域の人達に素晴らしい医療を届けたいという強い意志を感じました。麻田先生は柔道の有段者で、大変健康に恵まれた超人的な方でした。特に、終戦直後の貧しく健康保険制度のなかった時代、多くの人達を無償で献身的に診療されたことは、小学生の頃母親からよく聞かされ、私には強く印象に残っていました。晩年、先生は心疾患を患い、少し不自由になられました。丁寧に診療をしておられる姿を私は畏敬の念で拝見しました。そのような麻田先生を知るうち、この病院には70年以上の歴史があるということも相俟って、麻田先生のささやかな夢の実現のためお役に立ちたいと、率直に思うようになりました。まだまだ遠い先のことですが、地域の人達の理解や協力を得ながら、「100年後の丸亀市民に愛される病院」の実現に向けて職員の皆さんと一緒に頑張っていければ良いと思っています。

追伸…この文章を書いている間に、地元出身の「琴勇輝」や「高松商業の選手達」が大活躍しました。何かを信じて努力している若者達を見ているだけで、元氣になります。そのエネルギーを、日々の診療の場で活かして行きたいと考えています。

講演会を開催しました



3月12日、当院7階ホールにて、川崎医科大学附属病院、乳腺甲状腺外科准教授 田中克浩先生

生による乳がんについての講演会が開催され、一六〇名程の方々にお集まりいただきました。会場内は後方まで席が埋まり、女性の方の乳がんに対する関心の高さが伺えました。

講演会では、「最近の乳がんの診断と治療について」という演題に沿って、乳がんの疫学から自己検診の方法、様々な治療法まで、スライドとプリントを使用し、わかりやすく説明していただきました。普段見る機会がない乳がんの症状の画像なども目にするのができ、自己検診の際に、気をつける点もよくわかったかと思えます。

時にユーモアを交えた田中先生のお話は、これから看護師を目指す看護学校の生徒さんにとっても、とても興味深い内容だったようで、暗い

中メモをとるなどして、講演に耳を傾けていました。

講演会終了後に行ったアンケートの中で、「次回は甲状腺についての講演会を開催してほしい」、「乳がんの治療についてさらに詳しく聞きたい」とのご意見もあげられ、今回の講演会が、乳腺・甲状腺の病気に對する興味・関心を引き出す、よい機会となったようです。



乳腺外来のご案内

当院では週に2・3回、乳腺・甲状腺外来を開いております。今回講演をしていただいた田中先生(乳がん・甲状腺専門医)を含む3名の先生方で診察を行っております。乳がん検診で精密検査が必要な方や、日頃から気になる症状がおありの方、どうぞお気軽にご相談ください。ぜひ、この機会に専門医の診察を受けてみましょう。ご予約制となっていますので、下記までご連絡をお願いいたします。



問い合わせ先

地域医療連携室

0877-23-5850

8:30~17:30 (月~金)

8:30~12:30 (土)

腹部超音波検査精度管理事業への取り組み

当院健診科は、平成二十七年腹部超音波検査精度管理調査に参加し、A判定の評価を頂きました。

この精度管理調査とは、「公益社団法人 全国労働衛生団体連合会」主催で、各施設が実施する腹部超音波検査の走査技術および読影技術について評価し、必要な指導を行うことにより、信頼性の高い優良な健診施設を育成することを目的に毎年実施されており、評価はA(優)、B(良)、C(可)、D(不可)の4段階で行われます。

走査技術においては、日本消化器がん検診学会等がとりまとめた『腹部超音波検診判定マニュアル』(以下『マニュアル』)を踏まえたものであることとされています。腹部超音波検査は侵襲性が少なく、肝臓や胆嚢、腎臓などの腹部臓器の病変の発見に有用なことから健診では広く用いられています。検査する技師の知識・技術や検査装置などで大きく左右され、施設間でも統一がなされていませんでした。そのようなことから、この『マニュアル』は、どの健診機関でどの技師から検査を受けても同じ所見として評価されるよう作成されました。

当科では、超音波検査士を取得した臨床検査技師を中心に、この『マニュアル』に基づき腹部超音波検査担当技師間での差がないよう手技の統一をはかり、どの技師が担当しても同じ所見が得られるようにすること、また担当技師での勉強会や、学会・講習会等への積極的な参加による知識・技術の向上、さらに精度管理の一環として精密検査結果追跡調査のフィードバックによる所見の見直し等に努めてまいりました。

今回の精度管理調査でのA判定評価は当科の取り組みに対する結果であると捉え、今後の日常業務の励みになると同時に、受診者の方々によりよい検査を提供すべく日々精進していきたいと改めて思えるものとなりました。



連

携

室

だ

よ

り



れ“(入院)から、”在宅復帰“療養型病院への転院“(退院)までを、連携室チームでサポートしてきました。

早いもので地域医療連携室を開設して一年六ヶ月が経過しました。これまでに、基幹病院で急性期医療を受けた患者さまの治療を継続する病院として、”受け入

昨年12月からは基幹病院より紹介の患者さまを受け入れる準備のため、医療ソーシャルワーカー・リハビリスタッフ・看護師が紹介元の病院を訪問し、患者さま・家族・医療機関の担当者と面談することで状況把握でき、患者さまが安心して転院できる体制を整えています。

また、介護する家族をケアするためのレスパイト入院を受け入れています。詳細は地域医療連携室へお尋ねください。

今後さらに色々な課題が増えると思いますが、努力していきますのでよろしくお願いたします。

新しいメニューを工夫しています

～栄養科より～

入院してからの食事に対する関心は、皆さん少なからずあることと思います。昨年度から温冷配膳車を導入し、温度の面ではかなり満足していただけるようになったのではないのでしょうか。

4月からは、新メニューを考えています。今まで食べて頂いている献立も継続しながら、新しいメニューを入れていき、飽きさせない食事、目で見て楽しい食事を提供できたらと思います。行事食ももっと充実させていきます。病院食は療養の一環ではありますが、皆さんの意見を取り入れながら、患者様の生きがいの一つとなるようスタッフ全員で頑張っていきます。



おひな祭り

お正月



「日本医療機能評価機構」

の認定取得に向けて

ようやく当院も平成28年1月より、「日本医療機能評価機構」の認定に向けて出発しました。日本医療機能評価機構とは、第三者の立場で、地域に安全・安心で納得の得られる質の高い医療サービスを提供できているか評価し、各項目に対して一定基準を満たしている病院に認定を行っています。

評価項目としては、医療の質はもちろんのこと経営管理・危機管理等、幅広く審査対象となります。認定までには、まだまだ険しい道のりが予想されますが、一歩一歩着実に歩んでいきたいと思っております。これからの地域により一層必要とされる病院作りに邁進していきます。

投稿

「看護師」のなりたち

看護教育の生みの親はいくまでもなく「フロレンス・ナイチンゲール」です。ナイチンゲールは病に倒れた姉を看病することから看護の道を志すことになりました。

そんなことで彼女はイギリスの病院に勤めることになりました。その中で、看護の知識の無いものが看護師として働いていることを知り、また、クリミヤ戦争に従軍する中で、不衛生による感染死亡が多いことに気づき、彼女は看護学校を設立したり、衛生環境改善に取り組んだりするようになりました。このようにして、確立されてきたのが「ナイチンゲール精神」と云われるものです。

我が国では、1886年に最初の看護学校(看護婦養成所)が設立されました。その後しばらくして、1948年に保健師助産師看護師法が創られ、「看護師」という職業が確立されたのです。それまでは看護師免許はなかったのですが、1950年第一回目の看護師国家試験が行われ、今年で103回目です。最近では合格者が毎年5万人を超えるほどの人気の職業になっています。

以前は、女性は「看護婦」、男性は「看護師」と呼ばれていましたが、2002年3月の法改正で男女区別なく「看護師」と呼ばれるようになりました。

看護師が求められる領域は病院だけでなく、介護施設や訪問看護などに広がっています。また、海外では医師と看護師は同等の立場にあり、特定の治療であれば看護師の判断によって行える制度が確立されています。現在の日本ではまだ古い考えが残っていますが、先進国のおかげで、負けない医療の進化を確立するためにも、看護師免許の改善や看護師の待遇などを見直していく必要があります。

健康管理部次長 加藤 繁秋

スタッフ リレー

Vol.3



氏名 饗庭 久美子
所属部署 財務経理課 主任

前回 西森さんからの質問

Q おすすめスイーツを教えてください

A 高松の『夢葉房たから』の季節限定パイナップル大福♡

私から「あの方」への質問
生まれ変わったら何になりたい？

最近、世の中にはこんなにたくさん情報があるのに、自分の世界が狭くてこのままでは人生もつたいないなあ、とふと思うことがあります。料理も好きでないし、裁縫も好きでないし、本を読んでもすぐに眠たくなるし、体を動かすのも嫌いですが、いつか何か熱中できるものを探したいです。

財務経理課の饗庭(アイバ)です。メインの業務は、みなさんが使用する物の発注と給与に関することです。職員のみなさんに迷惑をかけるまい、不愉快な気分にしてしまわないよう、給与の処理には細心の注意を払っていますが、毎月給与日には何かやらなければならないかとドキドキしています。

入職式



入職式に参加して

総務課 主任 山口明美

今回、初めてお世話をする立場で入職式に参加しました。入職者の皆さんは少し緊張した面持ちで式に臨まれており、とても初々しく爽やかでした。理事長のお言葉に耳を傾けている真剣な姿がとても印象的で、これから各職場での活躍が大いに期待されます。私も入職者の皆さんと共に成長できるように、もっと努力が必要だと改めて思いました。

脳梗塞・心筋梗塞・がんが特に気になる方へ

LOX-index®

血液中の超悪玉コレステロール(LAB)とその担い手であるLOX-1を測定・解析する血液検査です。

将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価

検査結果で、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクがあれば早い段階から生活習慣改善に取り組むなどの予防対策に役立てて頂けます。検査結果に対する総合的なコメントや改善の方向性を提案。過去の検査結果からの推移も一覧できる解説付き。検査価格 ¥12,000 (税別)

早期発見が一番のがん対策 マイクロアレイ血液検査

がんのような異物に対する体の反応を遺伝子レベルで測定できる最新の技術です。

胃がん、胆道がん、膵臓がん、大腸がんが検査の対象となり、一度の採血で、検査できます。

消化器がんを早期発見

胃がん 大腸がん 膵臓がん 胆道がん

※この検査結果は、健康を判断するための一つのデータです。検査価格 ¥90,000 (税別)

少量の採血での検査です

検査結果は14~20日で送られてきます。この検査は健康保険の対象とはなっておりません。健診・人間ドックのオプション検査として受診可能です。

ご予約は 健康管理部直通 ☎0877-24-8300

ハーフマラソン



2月7日、絶好のマラソン日和、香川丸亀国際ハーフマラソンが開催されました。昨年9月半ばに、地元だし、一生に一度くらいは走ってみようと、エントリーして早半年。人生発のハーフマラソンがスタートしました。

普段は車で走ることしかない、丸亀⇄坂出の道のりを自分の足で走りました。走っている人たちは思い思いの格好で、中には仮装した人たちもいて、その集団の中にもいるだけでも何だかワクワクしました。コース沿いの歩道では、子どもからお年寄りまでいろんな方が温かい声援を送ってくださいました。完走できるか不安でしたが、いろんな方々の声援に力をもらい無事に完走できました。普通の生活を送っていたら、21kmという距離を自分の足で走ろうなんて思いもしないけれど、意外と楽しい21kmでした。

一生に一度、と思っていたけれど、誰かに誘われれば、また走っても良いかなと思えるハーフマラソンでした。(放射線科 岡原 真理)

職場長の夢



臨床工学科
主任 加藤 伸也

当院の臨床工学科の業務は透視・内視鏡・機器管理業務となっており、透視業務は、透視機器の保守・点検、患者様の血液データ管理、シヤント血管の管理を行っています。内視鏡業務は、胃カメラ・大腸カメラの介助、使用したカメラの洗浄、内視鏡機器の管理等を行っています。機器管理業務は、当院で使用されている医療機器の大半を保守・点検管理しています。現在、当院の臨床工学科技士は3名です。小さい部署ではありますが、これからもよろしく願っています。

臨床工学科技士は1988年に誕生した比較的新しい医療資格で、医療現場では「ME」と呼ばれています。臨床工学科技士という法律によつて、「臨床工学科技士とは、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者」と規定されているように、私たち臨床工学科技士は、人の呼吸・循環又は代謝の一部を代替えし、補助することを目的とされた医療機器を操作・点検管理しています。

編集後記

今年度新しく入職された12人の方はそれぞれ胸に希望を膨らましていてのことと思います。

迎える私たちもその方たちを含めて新しい出発となります。中国のことわざ「温故知新」ということが有ります。古きを訊ねて新しきを知ると言うことですが、最近「温故知新」が言われています。過去を糧にして新しいものを創ることだということですね。いまあるもので「作る」のではなく、ステップアップしたものを「創る」ことです。重仁としても3年目を迎え、ステップアップする年にしなければいけません。まさに「温故知新」です。

加藤 繁秋